

◎佐渡アイランド集落ツーリズム構想の実現に向けて
【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

(1)三浦市政の4年間の総括について

- ①三浦市長の4年間の具体的施策の成果
- ②新庁舎建設と今後の行政サービス
- ③新両津病院建設の今後の予定

(2)佐渡の空き家3,000棟の利活用について

- ①民家フォーラム2019 in 佐渡の総括
- ②佐渡市雇用機会拡充事業補助金（創業・事業拡大）の活用
- ③特定有人国境離島特措法3年間の成功事例モデル化の必要性

(3)佐渡金銀山の世界遺産登録について

- ①『ゴールドラッシュアゲイン』という考え方
- ②有形不動産の保全と観光振興策
- ③2030年までに佐渡の関係人口100万人創出へ向けて

■■■演壇にて■■■

皆さん、おはようございます。三度のメシより佐渡が好き!!! 政風会の室岡啓史でございます。『前向きの島づくり』を念頭に置き、『なんでも提案団』として通告に従い、一般質問をいたします。

なお、配布資料のPDFデータは、『室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会』オフィシャルサイトにアップしておりますので、テレビをご覧の方は『室岡ひろし』で検索していただき、是非ともご確認ください。

佐渡の農山漁村の生業を大切に、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現にむけて質問いたします。

【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

(1)三浦市政の4年間の総括について

- ①三浦市長の4年間の具体的施策の成果
- ②新庁舎建設と今後の行政サービス
- ③新両津病院建設の今後の予定

過去の一般質問でもお聞きさせていただいたことについて再度お尋ね致します。4年間の総括として、三浦市長はどのようなビジョンを実現しようとしているのかお教えてください。首長たるもの、シンプルかつ明確なビジョンを常に言葉で発信し続け、市民の皆さま全員と世界観を共有するという、とてつもなく大変かつ重要な仕事をする必要があると考えます。三浦市長の4年間の具体的施策の成果はどういうことなのかお教えてください。

また、新庁舎建設と今後の行政サービスについてはどうお考えなのかお教えてください。金井の現庁舎は平成29年度に実施した耐震診断の結果、昭和56年の新耐震基準の約1.5倍の強度があり、強度は十分であると聞いています。また、各支所・サービスセンターの庁舎整備は、有事の際も見据えた上で整った状況であると認識しております。

そして、新両津病院建設の今後の予定について、三浦市長のお考えをお聞かせください。先般、厚生労働省より『再編・統合の議論が必要』とされた佐渡市立両津病院ですが、厚生連佐渡総合病院に車で20分程度という立地基準が指摘されている事項であると認識しています。確かに二つの病院の距離は近いと言えますが、旧両津市エリア全体を中心にカバーする両津病院は、再編・統合の議論をするまでもなく必要と考えます。新潟県内7つの医療圏において、唯一県立病院のない佐渡でこそ、2024年（令和6年）10月に開院予定で60床を保持する新両津病院は必要不可欠であると考えます。

(2)佐渡の空き家3,000棟の利活用について

- ①民家フォーラム2019 in 佐渡の総括
- ②佐渡市雇用機会拡充事業補助金（創業・事業拡大）の活用
- ③特定有人国境離島特措法3年間の成功事例モデル化の必要性

佐渡の空き家3,000棟の利活用についてお尋ねします。平成25年度時点で佐渡市内の総住宅数28,580戸、うち空き家数5,810戸、空き家率20.3%。実に5棟に1棟が空き家ということになります。うち、利活用可能な空き家は約3,000棟と言われます。私は、3,000棟ある佐渡の空き家を燦然（さんぜん）と輝かせることが必要だと考えます。仮に1割が磨けば光る空き家だとすれば、全島に300棟ある計算になります。まずはそこから利活用すべきです。

去る10月に金井能楽堂にて日本民家再生協会主催『民家フォーラム2019 in 佐渡～いとしげな島、芸能と民家を引き継ぐ～』が開催されました。主催者の定量的目標として『民家フォーラム2019をきっかけとする、佐渡での空き家再生プロジェクトを2020年～2030年の10年間で10件実現させる!』と掲げられました。約100名がご来場されたフォーラムに、佐渡市は共催者としてご尽力いただきましたが、共催者として民家フォーラムをどのように総括しているのか佐渡市の見解をお聞かせください。

次に、佐渡市雇用機会拡充事業補助金(創業・事業拡大)の活用についての提案です。同補助金は、対象経費の4分の3補助であり、創業の場合は年間450万円、事業拡大の場合は年間1,200万円の補助金を最高で受け取ることができます。空き家を利活用する機運を醸成し、同補助金へのエントリーを促進するべきではないでしょうか。

2019年6月、『第1回先進的まちづくり大賞』の最高賞にあたる国土交通大臣賞に新発田市の月岡温泉の若手経営者らによる地域活性化の取り組みが選ばれました。空き店舗をリノベーションしてまち歩き拠点をつくり、温泉街全体ににぎわいを取り戻したことなどが最高賞として評価されました。旅館の若手経営者らが2014年に合同会社を立ち上げ、温泉街の空き店舗を借りて改装し、酒や米など新潟ならではの特色を打ち出した店を次々と展開。2014年5月に地酒をテーマにした1号店『蔵KURA』を開き、2019年4月の『実MINORI』まで年1店のペースで計6店舗をオープンさせております。このような取り組みを佐渡でも横展開するべきと考えますが、佐渡市の見解をお聞かせください。

最後に、特定有人国境離島特措法3年間の成功事例モデル化の必要性についてお尋ねします。同法が施行し、佐渡市民の佐渡汽船運賃低廉化が実現されたことは大変喜ばしいことです。そして、先述の補助金についても有効に活用されていることかと思えます。島内外の3年間の成功事例をモデル化し、先駆者からレクチャーをしていただくことで、これからチャレンジしてみようと思う方を増やす努力が必要だと考えます。例えば、リタイア世代で、空き家を抱えて悩んでいる方も同補助金を活用することでピンチをチャンスにする好機となるのではないのでしょうか。佐渡市の見解をお聞かせください。

(3)佐渡金銀山の世界遺産登録について

①『ゴールドラッシュアゲイン』という考え方

②有形不動産の保全と観光振興策

③2030年までに佐渡の関係人口100万人創出へ向けて

佐渡金銀山の世界遺産登録についてお尋ねします。先日、自由民主党本部玄関前にて佐渡物産展が開催され、私も参加させていただきました。単独市町村として初開催となるイベントが大盛況に終わったことは大変名誉であり、喜ばしい出来事です。その際、二階幹事長も佐渡金銀山の世界遺産登録の国内推薦獲得について、最有力である旨の太鼓判をいただきました。とは言え、佐渡の世界遺産登録については、市民の方とお話する中で、2020年国内推薦獲得、2022年に世界文化遺産登録されるとして、受け入れ体制の構築については不安の声の方が多い印象です。

そこで、『ゴールドラッシュアゲイン』という考え方を市民の皆さまと共有する必要があると考えます。これは『出島アゲイン』という長崎のプロジェクトに着想を得たものです。市民参加型の地域活性プロジェクトであり、出島へとつながる橋を再び架けることをきっかけに地域愛を醸成しています。ロゴマーク、ウェブサイト、出島ポーズの開発といったソフト面と架橋や周辺地域の整備といったハード面の双方からワークショップ形式等による市民参加型で取り組むことで、市民を主役にすることに成功しています。

江戸時代に栄華を極めた佐渡金銀山は、まさにゴールドラッシュの島。金が出たことで、ヒト・モノ・カネが佐渡に集まりました。今度は、佐渡が世界文化遺産となり、もう一度佐渡の魅力を島内外へ伝えることで地域が元気になるという世界観を『ゴールドラッシュアゲイン』とキーフレーズ化してはどうかという提案です。佐渡市の見解をお聞かせください。

次に、有形不動産の保全と観光振興策についてお尋ねします。世界遺産は『有形の不動産』を対象とし、文化遺産・自然遺産・複合遺産の3種類に分かれます。いずれも究極的には『有形の不動産の保全』を遵守する必要があります。佐渡において、北沢浮遊選鉱場跡や大間港などはどのようにして保全する予定なのでしょうか。そして、保全から観光振興策へとどのようにつなげるおつもりなのか、佐渡市の見解をお聞かせください。

最後に、2030年までに佐渡の関係人口100万人創出へ向けてについてお尋ねします。今月からいよいよ『さどまる倶楽部』のスマートフォンアプリと地域通貨『だっちゃコイン』が始まりました。これを機に、現在約19,000人である『さどまる倶楽部』会員を2020年度中に50,000人へと2.6倍増させ、そして2025年度中に10万人の会員獲得を目指す佐渡市ですが、どのようにして実現する戦略なのか、佐渡市の見解をお聞かせください。

以上で、一回目の質問を終了します。